

集会案内

日曜日

礼拝 1:45pm-2:45pm

教会住所

c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637
中庭の小さいチャペル

地図



ホームページ

www.irvinenihongokyoikai.org

榊原宣行牧師

電話(714)827-6244

Eメール: nobu@occc.org

杉村宰牧師

電話 (714) 234-4778

Eメール:sugimura1950@gmail.com

◎石叫 ■

「五十年振りの出会い」

サンデーのアーバイン教会から帰っての楽しみの一つは、くつろぎながら日本のテレビ番組を見ることで、その一つが「ブラタモリ」だ。三月十九日の夜、その録画のタイトルは「佐賀の発展は水にあり」というものだった。有明海がどのようにその近隣諸国の発展に寄与し、地理的にも貢献したかというもので、特に有明に接する佐賀藩は、維新当時、最強の藩と呼ばれ、藩主の鍋島直正公は先見の目を持っていて、日本の近代化に大きく貢献した雄藩の一つであった。

さて、その番組の半ばに差し掛かった頃、有明海の遠浅は海の満ち引きで埋められて、昔の港の堤防が埋まってしまい、もう使い物にならない、という説明をしている人物がいた。その場面では、彼は有明海を双眼鏡で眺めていて、タモリがその人物に近づいて話を聞くという設定だった。その人物の名前は下山正一といった。何だか聞いたことがあるような名前だ。なあ、と思いながら、続けてその場面を見てみると、なんと五十年前の大学時代の同級生ではないか。僕は「ええ！ 下山じゃないか」と思わず声を出すほど驚いてしまった。容姿がほとんど変わっていなかったの、すぐに分かった。彼は大学を終えてから九州大学に移り、そこで学位を取ったのだった。現在、彼は佐賀大学の非常勤講師であり、引退してからも彼の専門である地質学の方面での重鎮として活躍していたのだった。まさかテレビで同級生に出会うとは思っても見なかったが、折おりに同級生はどうしているのかと心にかかっていた昨今だった。

聖書には不思議な出会いが満ちている。それは不思議というより、むしろ、はからずもの出会いと言うべきか。ルツと彼女の夫となったボアズとの出会いがそうだ。「ルツは行って、刈る人たちのあとに従い、畑で落ち穂を拾ったが、彼女ははからずもエリメレクの一族であるボアズの畑の部分にきた」(ルツ二・3)とあるように、ルツは知らずに義理の母ナオミの親族、ボアズの畑で落ち穂拾いをしたのだった。そこからボアズとの結婚に導かれ、その子孫に救い主イエス・キリストが生まれることになる。不思議という世界の背後に、神の深いご配慮があることを忘れてはいけない。神は「はからずもの神」だからだ。わが同級生の上に、今度はこのはからずもの救いという祝福を切に祈る者である。

Rev. Tsukasa Sugimura

【わたしたちの教会の歩み】

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。杉村宰牧師をはじめ、榊原宣行牧師、加藤伸江姉、佐藤裕士兄と信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをしております。

【ミッション ステートメント】

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令(マタイ28:18-20)に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。